

# 平成23年度 事業報告書（概要）

（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）

学校法人 奈良学園

## 目 次

I. はじめに	P. 1
II. 法人の概要	P. 2～5
1. 沿革	(P. 2)
2. 法人本部及び設置する学校の所在地	(P. 2)
3. 学校・学部・学科等の学生数等の状況	(P. 3)
4. 役員の状況	(P. 4)
5. 評議員の状況	(P. 4)
6. 専任教職員の状況	(P. 5)
7. 学校別の土地及び建物	(P. 5)
8. 全体地図（奈良学園キャンパス位置図）	(P. 5)
III. 事業の概要	P. 6～15
1. ハイライト	(P. 6～9)
(1) 奈良産業大学 実践力の教育	(P. 6)
(2) 奈良文化女子短期大学 東日本大震災ボランティア	(P. 6～7)
(3) 奈良文化高等学校 キャンパス全面リニューアル完成	(P. 7)
(4) 奈良学園中学校・高等学校 第2期整備工事が完了	(P. 7～8)
(5) 奈良学園幼稚園・小学校、 奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校 繋がる学びと教育力	(P. 8)
(6) 奈良文化女子短期大学附属幼稚園 2歳児保育開始	(P. 8～9)
(7) 法人本部キャリア開発センター 奈良県下の高等学校を中心にキャリア講演を実施	(P. 9)
2. 設置校の主な事業と進捗状況	(P. 10～15)
(1) 奈良産業大学	(P. 10～11)
(2) 奈良文化女子短期大学	(P. 11～12)
(3) 奈良文化高等学校	(P. 12)
(4) 奈良学園中学校・高等学校	(P. 13)
(5) 奈良学園幼稚園・小学校、 奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校	(P. 14～15)
(6) 奈良文化女子短期大学附属幼稚園	(P. 15)
IV. 財務の概要	P. 16～21
1. 最近の投資と財務の状況	(P. 16)
2. 平成23年度決算の概要	(P. 17～21)
(1) 資金収支の概要	(P. 17)
(2) 消費収支の概要	(P. 18)
(3) 貸借対照表の概要	(P. 19)
(4) 平成23年度財産目録（概要）	(P. 20)
(5) 監査報告書	(P. 21)

[奈良産業大学 教育研究活動等の状況](#) (大学のページに移動します)

[奈良文化女子短期大学 教育研究活動等の状況](#) (短大のページに移動します)

## I. はじめに

平成 20 年度から第二次中期計画をスタートさせ、平成 22 年度までの 3 年間に「奈良学園教育ルネッサンス」を掲げ、その根本精神である「人間中心主義」、「教学中心主義」、「本物一流主義」、「公平公正主義」、「安全安心主義」に基づき、六つの改善・改革（「①総合学園としての体制を再構築する。」、「②高等教育を再編し存続可能な教育機関とする。」、「③高田キャンパスの存続・発展を図る。」、「④登美ヶ丘キャンパスの開発を完成し発展させる。」、「⑤奈良学園中学校・高等学校の競争力を強化する。」、「⑥安心・安全、公平・公正な教育環境を構築する。」）に取り組んできた。その結果、平成 22 年度までに、①・③～⑥については、ほぼ目標達成もしくは基礎固めが完了したが、②については改善・改革の端緒すら掴むに至らず、学園全体としての経営環境を悪化させてしまった。

第二次中期計画の 2 年目となる平成 21 年度には、経営環境がさらに悪化していく中で、日本私立学校振興・共済事業団の指導と助言を受けつつ、抜本的な計画の見直しを行い、平成 22 年度から 26 年度までの 5 カ年間にわたる「経営改善計画」を策定した。

平成 22 年度に入って、文部科学省による学校法人運営調査の対象法人となり、実地調査を受けた結果、平成 23 年度から 27 年度までを対象年度とする改訂「経営改善計画」を策定するに至った。

平成 23 年度は、この改訂された「経営改善計画」のもと、「教学改革計画」、「学生・生徒・児童・園児募集対策と学納金計画」、「人事政策と人件費の削減計画」、「経費削減計画」、「施設・設備計画」等の各改善・改革に着実に取り組むとともに、懸案の「②高等教育を再編し存続可能な教育機関とする。」を推進するため、平成 23 年 7 月に高等教育検討委員会を立ち上げ、平成 24 年 1 月には「高等教育の再編と再生に関する答申書」がまとめられた。この答申を受けて直ちに実行を進めるための組織作りに取り組み、「高等教育改革推進委員会」、「高等教育改革推進室」を平成 24 年 4 月 1 日から発足させることとなった。

## Ⅱ. 法人の概要

### 1. 沿革

昭和 36. 3	学校法人中和学園設置認可。
昭和 40. 1	奈良文化女子短期大学教養科及び奈良文化女子短期大学附属高等学校の設置認可。 教養科入学定員 100 人、附属高等学校入学定員 100 人、4 月 1 日開校。
昭和 42. 1	奈良文化女子短期大学附属幼稚園の設置認可。 総定員 180 人、4 月 1 日開園。
昭和 45. 4	学校法人奈良学園に名称変更を行う。
昭和 54. 1	奈良学園中学校、奈良学園高等学校設置認可。 中学校入学定員 90 人、高等学校入学定員 90 人、4 月 1 日開校。
昭和 58.12	奈良産業大学の設置認可。 経済学部経済学科入学定員 120 人、経営学科 120 人、昭和 59 年 4 月 1 日に開学。
平成 19. 4	奈良文化女子短期大学附属高等学校を奈良文化高等学校に校名変更。
平成 19. 6	法人本部を奈良県大和高田市東中 127 番地から奈良県奈良市中登美ヶ丘三丁目 15 番 1 号に移転。
平成 20. 3	奈良学園幼稚園、奈良学園小学校、奈良学園登美ヶ丘中学校設置認可。 幼稚園総定員 155 人、4 月 1 日開園。 小学校入学定員 120 人、中学校入学定員 200 人、4 月 1 日開校。
平成 21. 3	奈良学園登美ヶ丘高等学校設置認可。 入学定員 225 人、4 月 1 日開校。

### 2. 法人本部及び設置する学校の所在地

平成 24 年 3 月 31 日現在

学 校 名	住 所
法人本部	〒631-0003 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良産業大学	〒636-8503 奈良県生駒郡三郷町立野北 3-12-1
奈良文化女子短期大学	〒631-8523 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良文化高等学校	〒635-8530 奈良県大和高田市東中 127
奈良学園高等学校	〒639-1093 奈良県大和郡山市山田町 430
奈良学園中学校	〒639-1093 奈良県大和郡山市山田町 430
奈良学園登美ヶ丘高等学校	〒631-8522 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良学園登美ヶ丘中学校	〒631-8522 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良学園小学校	〒631-8522 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良学園幼稚園	〒631-8522 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良文化女子短期大学附属幼稚園	〒635-8530 奈良県大和高田市東中 127

### 3. 学校・学部・学科等の学生数等の状況

平成 23 年 5 月 1 日現在

学校名	学部等	入学定員	収容定員	現員	備考
奈良産業大学	法 学 部	—	—	3	H19.4 募集停止
	経済学部	—	—	3	H19.4 募集停止
	経営学部	—	—	5	H19.4 募集停止
	情報学部	200	800	224	
	ビジネス学部	200	800	446	H19.4 設置
奈良文化女子短期大学	幼児教育学科	100	200	124	
奈良文化高等学校	全日制課程 普通科	110 <sup>※1</sup>	330 <sup>※2</sup>	163	
	全日制課程 衛生看護科	80	240	222	
	全日制課程 衛生看護 専攻科	80	160	114	
奈良学園高等学校	全日制課程 普通科	240	720	615	
奈良学園中学校		160 <sup>※3</sup>	480 <sup>※4</sup>	487	
奈良学園登美ヶ丘 高等学校	全日制課程 普通科	120 <sup>※5</sup>	200 <sup>※6</sup>	137	H21.4 開校
奈良学園登美ヶ丘 中学校		120 <sup>※7</sup>	360 <sup>※8</sup>	347	H20.4 開校
奈良学園小学校		120	480	350	H20.4 開校
奈良学園幼稚園		35	155	122	H20.4 開校
奈良文化女子短期大学 付属幼稚園		50 <sup>※9</sup>	150 <sup>※10</sup>	123	

※1 募集人数。入学定員は 120 人。※2 各学年の募集人数の合計。収容定員は 360 人。

※3 募集人数。入学定員は 220 人。※4 各学年の募集人数の合計。収容定員は 660 人。

※5 募集人数。入学定員は 225 人。※6 各学年の募集人数の合計。収容定員は 675 人。

※7 募集人数。入学定員は 200 人。※8 各学年の募集人数の合計。収容定員は 600 人。

※9 募集人数。入学定員は 75 人。※10 各学年の募集人数の合計。収容定員は 255 人。

4. 役員 の 状 況 (平成 24 年 3 月 31 日 現 在)

※理事定数 8 人以上 12 人以内【現員 12 人】 監事定数 2 人又は 3 人【現員 2 人】

理 事 長 (常勤)	西 川 彭	学園長
理 事 (常勤)	藤 原 昇	学校長の互選による
理 事 (常勤)	松 田 親 典	学校長の互選による
理 事 (常勤)	山 田 勝 美	学校長の互選による
理 事 (常勤)	森 本 重 和	学校長の互選による
理 事 (常勤)	古 川 謙 二	学校長の互選による
理 事 (常勤)	水 野 隆 徳	評議員会の選任による
理 事 (常勤)	平 尾 透	評議員会の選任による
理 事 (常勤)	佐 藤 至 則	評議員会の選任による
理 事 (非常勤)	甘 利 治 夫	学識経験者
理 事 (非常勤)	梅 屋 則 夫	学識経験者
理 事 (非常勤)	中 本 勝	学識経験者
監 事 (常勤)	結 城 義 久	
監 事 (非常勤)	村 田 智 之	

注) 平成 24 年 3 月 31 日 退 任

理 事 (常勤) 佐 藤 至 則

理 事 (非常勤) 梅 屋 則 夫

監 事 (常勤) 結 城 義 久

平成 24 年 4 月 1 日 就 任

理 事 (常勤) 廣 田 英 樹 (評議員会の選任による)

理 事 (常勤) 梶 田 叡 一 (学識経験者)

監 事 (常勤) 梅 屋 則 夫

平成 24 年 4 月 1 日 変 更

理 事 (非常勤) 水 野 隆 徳

5. 評 議 員 の 状 況 (平成 24 年 3 月 31 日 現 在)

※評議員定数 21 人以上 25 人以内【現員 25 人】

法人職員	平尾 透 勝川育司 松岡雅一 福田 修 久保 守 菅田康裕 藤原和幸 角田道代 佐藤至則	学園卒業生	川戸昭人 光安寿一 池田順子 櫻井秀子 小鶴和美 出原雅代 岡下慎太郎 宮坂光行	学識経験者	朝廣佳子 小原壮一 加藤正二 阪本道隆 田村雅宥 西川 彭 橋本俊雄 水野隆徳
------	--	-------	---	-------	--

注) 平成 24 年 3 月 31 日 退 任

評 議 員 勝 川 育 司

評 議 員 佐 藤 至 則

平成 24 年 4 月 1 日 就 任

評 議 員 植 村 明 博 (法人職員)

評 議 員 廣 田 英 樹 (法人職員)

6. 専任教職員の状況（平成23年5月1日現在）

※学長・副学長・校長・園長・副校長・教頭は除く

校名	教授	准教授	講師 (大学・短大)	助教	助手	教諭	助教諭	常勤講師 (幼・小・中・高)	職員	計
奈良産業大学	30	15	7	3	0	0	0	0	38	93
奈良文化女子短期大学	7	4	4	0	0	0	0	0	13	28
奈良文化高等学校	0	0	0	0	0	42	0	0	9	51
奈良学園高等学校	0	0	0	0	0	34	0	0	4	38
奈良学園中学校	0	0	0	0	0	28	0	0	5	33
奈良学園登美ヶ丘高等学校	0	0	0	0	0	14	0	1	3	18
奈良学園登美ヶ丘中学校	0	0	0	0	0	19	1	1	2	23
奈良学園小学校	0	0	0	0	0	27	0	0	1	28
奈良学園幼稚園	0	0	0	0	0	7	0	1	1	9
奈良文化女子短期大学附属幼稚園	0	0	0	0	0	6	0	5	3	14
法人部門	0	0	0	0	0	0	0	0	33	33
計	37	19	11	3	0	177	1	8	112	368

7. 学校別の土地及び建物（平成23年5月1日現在）

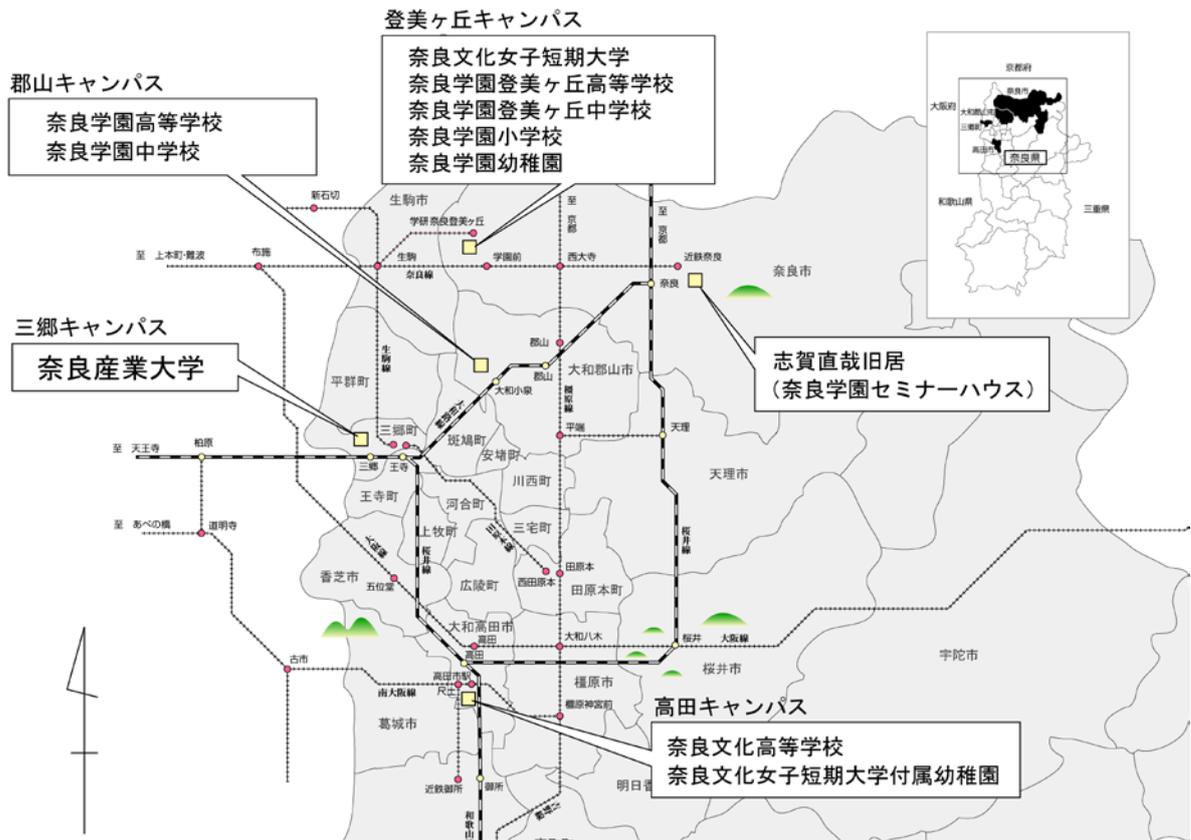
【土地面積】

奈良産業大学	203,745 m <sup>2</sup>
奈良文化女子短期大学	38,860 m <sup>2</sup>
奈良文化高等学校	55,665 m <sup>2</sup>
奈良学園中学校・高等学校	96,452 m <sup>2</sup>
奈良学園登美ヶ丘高等学校	12,136 m <sup>2</sup>
奈良学園登美ヶ丘中学校	10,795 m <sup>2</sup>
奈良学園小学校	5,781 m <sup>2</sup>
奈良学園幼稚園	1,243 m <sup>2</sup>
奈良文化女子短期大学附属幼稚園	4,564 m <sup>2</sup>

【建物面積】

奈良産業大学	32,785 m <sup>2</sup>
奈良文化女子短期大学	16,883 m <sup>2</sup>
奈良文化高等学校	15,236 m <sup>2</sup>
奈良学園中学校・高等学校	14,936 m <sup>2</sup>
奈良学園登美ヶ丘高等学校	10,366 m <sup>2</sup>
奈良学園登美ヶ丘中学校	10,566 m <sup>2</sup>
奈良学園小学校	9,412 m <sup>2</sup>
奈良学園幼稚園	2,234 m <sup>2</sup>
奈良文化女子短期大学附属幼稚園	1,452 m <sup>2</sup>

8. 全体地図（奈良学園キャンパス位置図）



### Ⅲ. 事業の概要（平成 23 年度）

#### 1. ハイライト

##### (1) 奈良産業大学－実践力の教育－

奈良産業大学では、建学の精神に「実践力」を掲げている。これに基づくビジネス学部及び情報学部のプロジェクト演習が実を結びつつある。

ビジネス学部では、地域との連携や貢献による活性化のプロジェクトを多く開設している。今年度のプロジェクトでは台風12号の被災地である十津川村との連携や交流に力を注いだ。学生がボランティアに参加す



〈郡山城天守閣（郡山城 CG 再現プロジェクト作品）〉

ることによって地域社会における自分を見つめなおす機会を得、「絆」の大切さを学んだ。

情報学部では、立体グラフィックス作成の技術を活かした郡山城CG再現プロジェクトの完成展示会を開催した。豊臣秀長時代の雄大な城郭をコンピュータグラフィックスで再現することで、大和郡山市の観光事業活性化にも貢献することができた。古文書、古地図等を読み取り正確に再現することに注力し、現地調査を重ねることで時代の息づかいが感じられる仕上がりとなり好評を得た。学生は学修した技術の活用の幅を広げることで大きく成長した。

##### (2) 奈良文化女子短期大学－東日本大震災復興ボランティア－

夏季休業中に本学学生が、東日本大震災復興ボランティアとして気仙沼方面でがれき処理にあたった。

長距離の移動、他大学と合同ということでやや心配な面もあったが、学生たちは、積極的に準備・作業に取り組んだ。学生たちは、テレビで見る映像と実際の被災地との違いを自分の目や肌で感じ、衝撃を受けた様子であった。また、がれきの中から卒業アルバムや日記等も出てきて、



〈現地に向かうボランティアたち〉

ここで人の生活があったことを改めて認識させられていた。学生たちは、自分の生活と被災地にあった生活を重ね合わせることができ、より真摯に作業に取り組むことに繋がったようだ。海外からのボランティアとも交流でき、「人間は当たり前」に支えあうことが

できる」ということを学んだ。この貴重な体験は、将来、保育者となる学生たちにとって大きな財産になったと確信する。

### (3) 奈良文化高等学校ーキャンパス全面リニューアル完成ー

キャンパス全面リニューアルがいよいよ完成を迎えた。前年度の新校舎・新学生寮建設、既存校舎整備に続き、寮の増室、合宿所開設、外構工事が行われ、奈良学園発祥の地、高田キャンパスはイメージを一新した。

「清優寮」は 136 室となり、今では在学生の 5 名に 1 名が寮生である。

また合宿所は宿泊室、監督室、大浴場

等を備え、全国の中学校・高等学校とのスポーツを通じた交流の推進に活用されている。

また勉強合宿など校内の生徒宿泊行事での活用も期待される。外構の整備としては、点在する校舎群を結ぶ長大な渡り廊下が完成。雨の日も広大なキャンパス内を快適に移動できるようになった。また「万葉の小径」に万葉植物の花が咲き始め、新しいシンボルとなりつつある。そして待望の正門が完成。「奈良文化」を彷彿とさせるイメージで新校舎と見事な調和をなしている。

この大事業の完成を受け、本校では生徒参画活動を催し、生徒により「大和門」(旧高校門)、「撫子門」(旧短大門)、「万葉門」(旧西門)、「光陽舎」(合宿所)との命名を行った。



〈正門から新校舎を望む〉

### (4) 奈良学園中学校・高等学校ー第2期整備工事が完了ー

奈良学園中学校・高等学校では、新体育館が7月に竣工した。

地下1階地上2階建ての新体育館は、アリーナに1,200人程度収容可能である。空調設備を備えており、地下にはトレーニングルームとリハーサル室がある。

トレーニングルームには様々な器具が備えられ、授業や部活動で体力増強を図るための環境が整備された。



〈新体育館〉

屋外では旧第1体育館の跡地にテニスコートを2面増設して計5面となり、クラブ活

動の環境が充実した。

平成 23 年度の第 1 体育館の建て替えにより、平成 19 年度から進めてきた校舎建て替えの第 1 期及び第 2 期整備工事が完了した。

(5) 奈良学園幼稚園・小学校、奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校一繋がる学びと教育力一

幼稚園から高校までの 15 学年のうち、小学校 5・6 年を除く、13 学年が完成した。平成 25 年度における完成に向けて、「3+4-4-4 カリキュラムルートマップ 2011」、「中学校への内部進学の流れ」、「M1・2 シラバス」を作成し、学びの連続性を推進するための



〈新スクールバス車庫〉

「一貫教育システム計画」を完成さ

せた。また、総合グラウンドでの合同運動会や学習発表会と文化祭を融合した「尚志祭」を開催し、本校の特色である全校種・全学年が参加する「異学齢交流活動」をさらに充実させた。環境整備については、5 台目となるスクールバスの導入によって通学の便をより良くするとともに、スクールバス車庫を新たに建設した。さらに、視聴覚機器・情報機器・自習室等の整備など教育環境の充実も実施した。

教育力の強化については、年間を通じて教員研修や授業研究会、公開授業の開催に努めるとともに、園児・児童・生徒に対しても、外部講師による講演会や体験学習の機会を数多く各校種で取り入れ、子どもの発達段階や心身の成長に応じた教育内容を展開することができた。また、危機管理や安全対策についても取り組みの充実を図り、警察による防犯研修、消防署による合同火災避難訓練や地震避難訓練、AED 救命救急講習など、災害等に対する安全管理についての研修や訓練を実施した。

(6) 奈良文化女子短期大学附属幼稚園一2 歳児保育開始一

子育て支援の一環として、2 歳児保育を開始した。「おひさま・ぼっかぼか組」とクラス名を付け、年間を通して担当教員を配置して保育を行った。月に 2 回の親子登園で、26 組の親子が参加し、運動用具を用いたサーキット遊びや絵の具遊び、広大なキャンパス内での自然体験など、他園にはない本幼稚園だからこそできる遊びを楽しんだ。回を重ねるごとに、保護者から離



〈おひさま・ぼっかぼか組〉

れて子どもたちだけで活動できるようになり、また、子ども同士、保護者同士のつながりも生まれ、成果をあげることができた。

また、本園の重点目標に健康教育をあげ、裸足で行う活動や体育遊び、和太鼓など、園児の体力づくりを目指す取り組みを強化すると同時に、保護者に対しては健康への関心を高める活動や食育研修を行い、園児の丈夫な体づくりを啓発した。

#### (7) 法人本部キャリア開発センター — 奈良県下の高等学校を中心にキャリア講演を実施 —

キャリア開発センターでは、奈良県下の高等学校を中心に高校生や高校生を持つ保護者を対象に出張講義「働くことについて」を、当センター所長が講師を務め実施している。

時代の変化のスピードが増し、職業も多様化している。また、同じ職業名でも役割や方法が変わり、進学・就職に対する進路指導が大変難しくなっている。そういう状況の中、高校の現場



〈講演会の様子〉

でもキャリア教育のニーズが増えてきており、当センターへの講演依頼も年々増加し、これまで20校で実施した。具体的内容は、「社会の変化と就職の現実」「知的生産性の向上（数学と国語の勉強の重要性）」「創造力の向上（誰に、何をして、喜ばれるか）」「高校生活の目標化（得意分野をつくる）」などのキーワードをベースに、「働くというのは価値を提供すること」ということを高校生にわかりやすい言葉と事例を使って講義するというものである。

受講した高校生からの評価は多少、難しく感じるころはあるが、概ね「わかりやすかった」「得意分野をつくりたい」「真剣に進路を考えたい」というものが多かった。また、保護者からは「自分の子どもたちに聞かせたい」という声が多く、その反響を受けて高校生にキャリア講演を実施するケースも増えている。

## 2. 設置校の主な事業と進捗状況

### (1) 奈良産業大学

#### 【取組みの重点】 —スポーツ振興、国際交流、地域連携—

・スポーツ振興では、学生のクラブでの活動を支援している。硬式野球部は近畿学生野球リーグ戦で春秋連覇し、32 回目のリーグ優勝を果たしている。剣道部は関西学生剣道優勝大会で団体ベスト4の快挙を成し遂げた。女子バスケットボール部は創部4年目にして関西女子学生リーグ1部昇格を果たした。陸上競技部は主将の天野正治君が日本学生陸上競技個人選手権大会 3000m障害において大会新記録で優勝した功績が称えられ、学園として初めての「学校法人奈良学園栄誉賞」に表彰された。

・国際交流では、留学生の受け入れを進めると共に、学生間の交流を進めた。短期留学生を中国、香港、台湾、カンボジアから受入れた。本学学生7名を青島理工大学琴島学院へ語学研修に、4名をカンボジアメコン大学・香港城市大学専上学院との交流に短期派遣した。蘇州科技学院からの特別聴講留学生を含む12名の学生を韓国東亜大学校に派遣し日中韓の学生による東アジア文化交流研修会を開催した。

・地域連携では、公開講座として恒例となっている王寺町リーバーカレッジ10回、奈良駅前大学3回に加え、第1回公開シンポジウム「これからのエネルギーを考える」を開催した。なお、大学キャンパス開放イベントも継続実施し、お花見、夏休み花火イベントなどは近隣の小中学生からシニアの方まで幅広い年齢層の地域の多くの方に参加いただき好評を得た。

#### 【教育環境】

・建学の精神に掲げる「実践力」を養成するため実施しているプロジェクト演習においては、大和郡山市との提携で進めていた郡山城CG再現プロジェクトが完成し好評を博した。農園での作業を通じて地域を理解する地域貢献プロジェクトに加え、地域活性化プロジェクトでは、台風12号による豪雨で被災した十津川村において、学生が復興支援と地域活性化のため開催された駅伝やマラソン大会に陸上選手として出場した。また、大会運営のボランティアも務め、大会を盛り上げる一助を担うことができた。

・専門職養成プログラムは、本学教員のコーディネートのもとで専門学校と提携して資格を取得させるビジネスプロフェッショナルの養成を目指している。具体的には卒業後に税理士・消費生活アドバイザー・司法書士・行政書士・公務員の専門職を目指す学生をサポートする制度でスタートした。初年度である今年度は82名が秘書技能検定、ビジネス能力検定の各資格試験を受験しそれぞれ48名中22名、34名中24名が合格した。基本情報技術者試験は5名中1名が合格した。

#### 【学生支援】

・学生支援センターに常駐配置した臨床心理士による心のケアに加え、リメディアル教育の試行的実施を行った。高校までの修学において行き詰まっている不得意分野を改めて学習することで大学専門教育のスムーズな修得を支援することとした。夏休みと後期期間の自主勉強会には多くの学生が参加し、教員のアドバイスの下自分の成績を確認した。

・学生間の交流が進んだことで、留学生とのコミュニケーションが深化し、前述の海外派遣に参加する学生が増加した。

#### 【学生募集】

・高等学校16校と連携協定、74校と遠隔地協定を締結し、本学との繋がりを強化した。広報推進本部が先導して教職員全員での高校訪問や出張講義による学生募集活動を推進した

が、結果は思わしくない現状である。

- ・東日本大震災による原子力発電所事故の影響もあり、留学生の入学が減少した。

#### 【社会連携・地域貢献】

- ・地域公共学総合研究所では昨年に引き続き研究経過報告会を開催し地域公共学総合研究所「年報第2集」を発刊した。三郷町及び三郷町商工会との産官学の地域活性化協議会が設置され連携が強化された。

#### 【環境整備】

- ・体育館のアリーナ張り替えに加え外装、更衣室等の全面リニューアルが完成した。
- ・情報教室のパソコン200台以上を更新し利用を開始した。ネットワーク管理のサーバ等も更新したことにより、安定した学習環境を提供することができるようになった。

## (2) 奈良文化女子短期大学

#### 【取組みの重点】

- ・23年度は経営改善計画の修正がなされたが、短期大学では全教職員が一丸となって学生募集活動に取り組むことで、年度目標値を超え、次年度目標に迫る数字を達成できた。

#### 【教育環境】

- ・ディプロマポリシー（学位授与の方針）、カリキュラムポリシー（教育課程の編成方針）を制定した。
- ・授業改善を目標に、全教員が授業公開を実施した。
- ・教職実践演習を開講した。4名の授業担当者により、ロールプレイング、事例研究、模擬授業等を取り入れ、実際の教育現場を想定した教育課題を取り扱った。
- ・入学前教育「Welcome Note」の内容について、国語、音楽、数学の他に、実習用の名札作り、お菓子作り、読書、自己紹介のページを加え、大学での学びを楽しみながら知ってもらうものに改善した。
- ・23年度から登美ヶ丘図書館と高田書庫の形をとるようになった。図書・資料整理作業は継続中であるが、学習及び教育研究により貢献できるよう館内配置、図書・資料収集に新たな工夫を行った。また情報提供のサービス向上を進めている。
- ・危機管理マニュアルを作成し、そのマニュアルを使用して全学で避難訓練を実施した。

#### 【学生募集】

- ・前年度からの取組みに検討を加え、本年度も全学体制で募集活動に臨んだ。その結果、入学生の質も向上し、また、長期履修制度の認知も進んだこともあり、定員確保の点でも大きく前年度を超えた。

#### 【社会連携・地域貢献】

- ・子育て支援事業として奈良市から受託している「奈良市つどいの広場」は、「ちびっこ広場」と合わせて、6,303名の利用があり、本学の研究、教育に大きな成果をあげている。地域の方から、こうした広場で自分の活動を活かしたいとの申し出もあり、広場のミニイベントに参加していただいている。隣接する「地域子育て支援センター」からも、「絵本のお話会」として参加があり、次年度は2回の開催が決まっている。今後も地域住民や様々な機関との連携を進めていく。
- ・幼小連携合同研究会を年間11回開催。関西一円の現職教職員（保幼小・大学等）、本学学生、卒業生及び学園内幼稚園・小学校教員と共に幼小接続カリキュラムについての研究

を深めている。また、その取り組みを書籍として発刊し、高校や実習先にも届けている。

#### 【環境整備】

・1号館内の教育備品の補充、食堂スペースの拡充をした。アリーナ・クラブハウスの設備拡充、短期大学構内の植栽の保全など、学生たちの大学生活の充実を一層進めた。

### (3) 奈良文化高等学校

#### 【教育環境】

・学習習慣の定着と大学進学への基礎学力の向上を目指し、「毎日宿題」「マナトレ」を導入した。

・ALTの講師を任用し、英語授業をはじめ国際理解教育、英検対策などを充実させた。

・現役予備校講師を任用し、大学受験対策講座を開講した。

・メール配信システムを導入し、自然災害・事故・事件などが発生しても生徒や保護者と迅速に連絡を取れるようにした。

・普通科I類において、第2学年進級時に選択させていた4つのコース(きららセレクト)の1つである「看護進学コース」を入学時より設け、放課後の特別講座を開講するなど看護系大学希望者の基礎学力定着を図った。(H24年度入学生より)

#### 【生徒募集】

・完成した新校舎・寮の施設設備アピールのため、本校主催の見学会・説明会の開催回数を増やした。また、募集冊子を大幅に見直すなど生徒・保護者にできる限り本校へ足を運んでいただけるよう募集活動を展開した。

・寮の2期工事を視野に入れ、前年以上に遠隔地での広報活動を展開した結果、志願者と奨学生委託病院の確保に繋がった。

・高校准看護師資格合格率100%、専攻科看護師試験合格率100%の実績をアピールし、大阪方面の激戦区からも志願者を多く集めた。

#### 【社会連携・地域貢献】

・衛生看護専攻科の学生が、かしはら万葉ホールにおける「看護の日」の行事及び奈良県産業会館における「ものづくりメッセ」に参加し、それぞれ地域の方々に血圧測定・体脂肪測定を行った。また「奈良マラソン」でも准看護師の資格を活かしてランナー救護のボランティアに参加した。

・茶道部員が、葛城市の「ゆめフェスタ in 葛城」に参加し、当麻寺参道沿いの「天満宮」境内で野点を行った。

・本校の奏ホールや新校舎を活用し、8月と3月の2回にわたり、関西で活躍されているプロの演奏家を招聘して、近隣中学の生徒を対象とした吹奏楽クリニックを実施した。

・葛城市と本校リズム館を避難所とする防災協定を締結した。

#### 【環境整備】

・寮の2期工事が3月末に完了し、寮室は48室増の136室となった。同時に合宿所も完成したことにより、今後、各種クラブの合宿、リーダーズ研修などの活用が見込まれる。

・みやび棟北側に人工芝テニスコート2面とグラウンドバックネット裏の観覧席の整備によりテニス部とソフトボール部の練習環境が向上した。

#### (4) 奈良学園中学校・高等学校

##### 【教育環境】

- ・広大な校地（13ha）内の里山を整備し、「森の教室」を設けている。主に中学 1, 2 年生を対象として、椎茸栽培、稲作、ホテルのための環境づくりなどの研修を行っている。
- ・平成 23 年度、その功績が認められ「全国学校・園庭ビオトープコンクール 2011」で「国土交通大臣賞」を受賞した。これらの取組には、本校卒業生、和歌山大学生、大阪経済法科大学生などがサポートに入ってくれている。

##### 【生徒募集】

- ・学校説明会の実施、学校外での説明会への参加、塾等への訪問活動などを精力的に実施した。
- ・大阪府の高校助成制度、他校の入試日の変更などの影響で受験者数はやや減ったが、合格者の学力レベルについては少し向上した。

##### 【医進コース 1 期生の卒業】

- ・平成 18 年度から医進コースを設けて、医学部医学科を志望する生徒を募集した。その 1 期生が本年度卒業となった。国公立大の医学部医学科は相当な難関であるが、学校全体として、20 名が合格し、相応しい実績を残した。私立大医学部医学科にも 10 名が合格した。

##### 【国際交流】

- ・国際理解教育として、高校 1 年生の希望者 34 名がオーストラリアでの海外短期研修プログラムに参加した。夏期休暇中の二週間であるが、アデレード近郊の学校での研修、ホームステイなど異文化体験と英語研修をする良き機会となった。
- ・高校 2 年生の代表 5 名が、本校としては初めてベトナムのグエンシュエ高校とハノイ工科大学を訪れ、親善とサイエンス交流を行った。12 月 17 日～22 日の間であるが、同国では棚田などの環境研修、日本企業の環境に関する取り組みなどについても実地で学んだ。

##### 【科学教育と SSH】

- ・サイエンス出前講義を大阪教育大、奈良女子大などの先生方の協力を得て、年間 6 回実施した。
- ・「科学館を愛する生徒の会」が福島、広島、奈良などでの放射線量を計測し、風評の間違った等を科学的に実証してきたことが評価され、10 月には NHK 番組（クローズアップ現代）で大きく取り上げられた。
- ・3 月末には、本校の理科教育の実績と今後の取組予定が高く評価され、文部科学省からスーパーサイエンスハイスクールに指定された。（平成 24 年度～28 年度）

##### 【環境整備】

- ・校地内の里山を年次計画で整備している。また、本年度、第一体育館（2 階建て、空調完備）が 7 月に竣工し、第二体育館、青雲館（武道場）と合わせて、体育活動のための屋内施設が全て整った。テニスコートも本年 1 月に旧体育館跡に増設されて合計 5 面となり、人工芝のサッカー場と合わせて生徒が体育活動をするための環境が充実した。
- ・高校生になると自転車で通学する生徒が多いため、校内への道路に自転車専用道を設け、安全に通学できるようにした。同時に、学校のある山田町自治会の理解を得て、里道を登校時だけ使用できるようにしてもらった。平成 24 年度からこれらの道を使用することとしている。

## (5) 奈良学園幼稚園・小学校 奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校

### 【教育環境】

・幼小中が開校して4年目、高校が開校して3年目となり、幼稚園から高校までの15学年のうち、小学校5・6年(Middle1・2年)を除く、13学年が完成した。平成25年度における完成に向けて、平成23年度は、全校種教員による教育課程部・拡大教科会・内部進学委員会において検討を重ね、7月に「3+4-4-4カリキュラムルートマップ2011」及び「中学校への内部進学の流れ」を作成し、保護者に提示した。また、これらを受けて、3月には「M1・2シラバス」を作成し、幼・小・中・高と繋がる学びの連続性を推進するための「一貫教育システム計画」を完成させた。

・異学齢交流活動については、6月に総合グラウンドで全校園児・児童・生徒が参加する合同運動会を開催し、9月には、従来の合同学習発表会を、「尚志祭」という新たな名称のもとに、1日目を学習発表会、2日目を文化祭とした2日間開催に変更し、各校種の特徴が発揮できる形で内容をより充実させた。

### 【園児・児童・生徒募集】

・小学校の募集定員を120名から90名に変更した。

・広報活動については、幼稚園において体験入園の回数を増やすとともに、園長による子育て講演等の企画を行った。小学校においては2回の学外説明会(檀原・難波)を新たに実施し、地域の拡大を図った。中高においては、体験授業の枠を広げ、学習体験に加えて、クラブ活動体験の機会も設けた。

### 【特色を踏まえた教育力の強化】

・本校の教育力を強化するために、教員研修や授業研究会、公開授業の開催に努めた。全校種教員による研修では、6月に光延栄治氏(エデュケショナルネットワーク(株)学校支援課課長)による「市場に望まれる生徒指導と保護者対応の実現に向けて」について、11月に内田伸子氏(元お茶の水大学大学院教授)による「考える力を育てる『ことば』の教育」について、2月に上嶋恵氏(子どもの教育研究所長)による「子どもを変える情報入力指導について」を、それぞれ子どもの発達段階や心身の成長に応じた教育について研修を行った。また、11月には、「確かな学力を支える『言葉の力』—話し合い 学び合い 高め合う授業—」をテーマに、幼小が連携した「ERP教育フォーラム」を開催し、梶田叡一氏(前中央教育審議会副会長、環太平洋大学学長)の講演や公開授業、パネルディスカッションを行った。

・小学校では、児童及び保護者を対象にしたサイエンス教室として、7月に「ホテルの光を手のひらに」(リバネス社)、1月には「はやぶさの冒険」(JAXA)を実施し、中学高校で開催してきた各界の著名な方々を招いての「登美ヶ丘講演」(平成23年度は、6月に京都大学総合博物館館長の大野照文教授、12月に東京大学名誉教授・(財)地球環境産業技術研究所所長の山地憲治氏を講師に招いた)を小学校段階にも拡大させた。

・以上のほかに、1学期に校種単位での防犯研修(奈良西警察署)、6月に幼小中高合同火災避難訓練(奈良西消防署)、7月に教員対象AED救命救急講習(救命救急普及研究所バイスタンダー代表)、1月に合同地震避難訓練(奈良西消防署)など、災害等に対する安全管理についての研修や訓練を実施した。

### 【環境整備】

・10月にはスクールバス車庫が完成するとともに、3月末には5台目となるスクールバスの導入によって、バスの維持管理が徹底され、児童・生徒の通学の便がさらに良くなった。

・Primary (小学校1～4年)・Middle (小学校5年～中学校2年)・Youth (中学校3年～高校3年) 各タームの教育内容や教室施設設備について見直しを行い、視聴覚機器・情報機器・備え付けロッカー・自習室の整備等の改善を図った。

## (6) 奈良文化女子短期大学附属幼稚園

### 【教育環境】

・園児の体力づくりを強化する取り組みとして、裸足で行う活動を積極的に取り入れた。室内鉄棒やマットなどの運動具を使った運動遊びや体育遊び、また、和太鼓や描画活動、劇遊びなどを裸足で行い、健康な体づくりを目指した。同時に、全園児で取り組む朝の集まりを月に1回計画し、広い園庭で思いっきり体を動かして、外遊びを十分に楽しむように働きかけた。

・園児の丈夫な体づくりの啓発活動として、保護者に食育研修を行い朝食の見直しを喚起し、ダシ(旨み)のとりかた等の実習を行った。親子クッキングも行い、手作りの楽しさ、良さを実感できた。

・「食」への関心を高める「栽培から食まで」活動として、年長児がバケツでの稲作りを試み、秋には収穫、冬にはそれを使用しておもちつきを行った。

・「豊かな表現を引き出すために」を年間テーマとして園内研修を重ね、3学期にはその成果を保護者に発表することができた。

・「みどりの幼稚園」プロジェクトの中で、地域の公立幼稚園との交流や親子ネイチャーゲーム大会などを実施し、本園の特色ある取り組みとして定着した。

・2歳児保育「おひさま・ぽっかぽか組」を開始し、月2回26組の未就園児親子に保育を提供した。担当教員を配置し、幼稚園だからこそできる内容を大切に年間計画を立て、年度末には、参加した子ども同士、そして保護者同士のつながりも生まれ、成長を確かめ合うことができた。

### 【園児募集】

・日曜日に入園説明会、給食試食会を開催し、参加者数が増加した。また、毎月1回実施する体験入園「みつばち・ぶん」や2歳児保育において、本園の教育理念や教育方針等を発信するように努めた。その結果、募集目標数を上回る結果となった。これには保護者による口コミの力も大きいと思われる。次年度も保護者の満足度をあげ、募集の後押しをしてもらえるように努力していく。

### 【環境整備】

・奈良交通に業務委託し、安全・安心・安定した通園バス運行が可能となった。運転マナーの良さが地元住民に喜ばれている。

・メールシステムの導入により、保護者に対して迅速で正確な情報連絡ができるようになった。バス遅延時や緊急時に効果を発揮した。

・開放廊下に雨よけ庇を設置し、雨天時の危険、不便さを一気に解消できた。

・外壁フェンスの付け替えにより、上品で柔らかい私立幼稚園らしい外観が完成した。

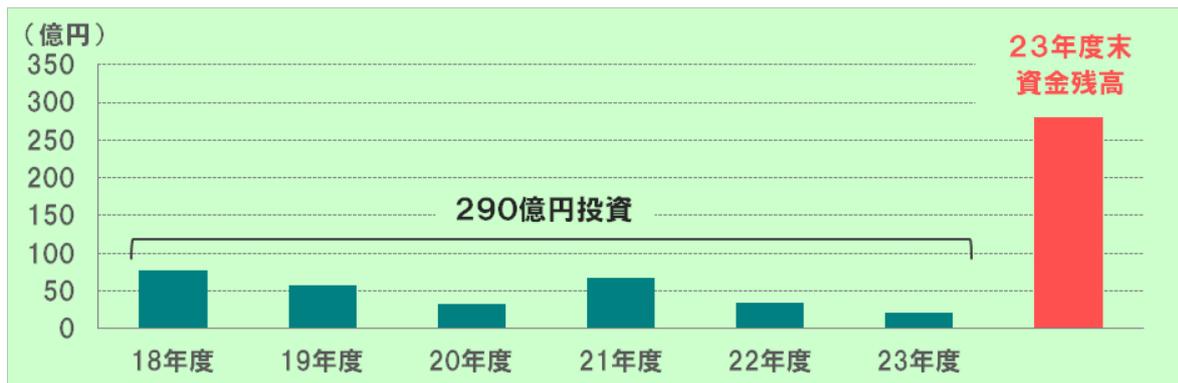
## IV. 財務の概要

### 1. 最近の投資と財務の状況

奈良学園では、各キャンパスの施設設備に対して、平成 18 年度から大規模な投資を行ってきたが、平成 23 年度を以って概ね完了した。

この結果、学園内に耐震上問題となる建物はなくなり、安全で充実した教育環境が整備され、施設設備面における競争力が強化された。

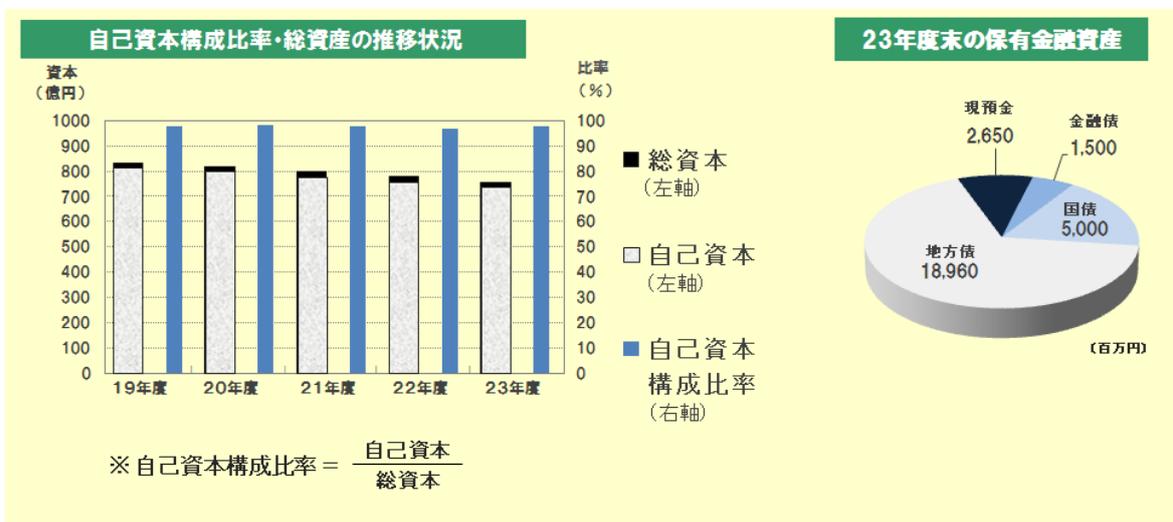
下表は、平成 18 年度から 23 年度までの投資実績をグラフ化したものである。これらの開発資金を全て自己資金で賄ったうえで、23 年度末時点においてなお、充実した資金残高を保有している。



また、財務指標をみると、奈良学園の自己資本構成比率は極めて高く、学校法人としての自己資本の充実ぶりを示している。

奈良学園のスケールを示す総資産は、奈良県下大学法人の中で最上位の地位にある。

下表は、19 年度以降の自己資本構成比率、総資産の推移状況及び 23 年度末の保有金融資産を示したものである。



## 2. 平成 23 年度決算の概要

### (1) 資金収支の概要

収入の部合計から前年度繰越支払資金を減じた当年度資金収入は 11,795 百万円、支出の部合計から次年度繰越支払資金を減じた当年度資金支出は 12,087 百万円となり、次年度繰越支払資金は 2,647 百万円で前年度に比べ 292 百万円減少した。

当年度は、高田キャンパスの校舎改築・寮増設、郡山キャンパスの体育館建替、登美ヶ丘キャンパスのバス車庫建設、三郷キャンパスの体育館改修等の事業を行った結果、施設関係支出及び設備関係支出で、あわせて 1,193 百万円となり、前年度に比べ 2,744 百万円減少した。

予算と比較すると、当年度資金支出は施設関係支出・設備関係支出の圧縮等により、692 百万円の減少となった。

#### 平成 23 年度 資金収支計算書

(平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで)

(単位：円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	2,473,202,000	2,485,967,620	△12,765,620
手数料収入	62,984,000	51,474,160	11,509,840
寄付金収入	12,994,000	12,925,520	68,480
補助金収入	831,909,000	986,546,725	△154,637,725
国庫補助金収入	33,856,000	103,321,000	△69,465,000
地方公共団体補助金収入	797,801,000	882,909,725	△85,108,725
その他補助金収入	252,000	316,000	△64,000
資産運用収入	348,104,000	355,878,553	△7,774,553
資産売却収入	7,100,000,000	6,416,200,000	683,800,000
事業収入	101,783,000	100,735,896	1,047,104
雑収入	48,580,000	76,796,506	△28,216,506
前受金収入	425,249,000	304,248,045	121,000,955
その他の収入	1,351,678,000	1,399,492,073	△47,814,073
資金収入調整勘定	△400,314,000	△395,043,330	△5,270,670
前年度繰越支払資金	2,940,326,567	2,940,326,567	
収入の部合計	15,296,495,567	14,735,548,335	560,947,232

支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	3,477,247,000	3,385,031,837	92,215,163
教育研究経費支出	1,125,053,000	1,019,286,886	105,766,114
管理経費支出	380,281,000	375,784,114	4,496,886
施設関係支出	1,139,196,000	1,052,939,900	86,256,100
設備関係支出	327,312,000	140,892,832	186,419,168
資産運用支出	4,000,000,000	4,008,125,000	△8,125,000
その他の支出	2,766,789,000	2,713,846,501	52,942,499
[予備費]	( 0 )		
	20,000,000		20,000,000
資金支出調整勘定	△455,267,000	△608,111,233	152,844,233
次年度繰越支払資金	2,515,884,567	2,647,752,498	△131,867,931
支出の部合計	15,296,495,567	14,735,548,335	560,947,232

## (2) 消費収支の概要

当年度帰属収入は 4,234 百万円で、帰属収入から基本金組入額 381 百万円を減じた消費収入は 3,853 百万円となった。一方、消費支出は 6,163 百万円を計上し、当年度の消費収支差額は 2,309 百万円の支出超過となった。主要因は、近年の施設設備の大規模な拡充に伴い減価償却費が大きく増加していることと、当年度も高田・郡山・三郷キャンパスの施設整備等に伴い資産処分差額のうち固定資産処分差額を 375 百万円計上したことにある。

予算と比較すると、帰属収入は学生生徒納付金、地方公共団体からの補助金、資産売却差額の増加等により、358 百万円の増収となった。消費支出は資産処分差額が増加したものの人件費・教育研究経費・管理経費がいずれも減少したことにより、255 百万円の削減となった。

### 平成 23 年度 消費収支計算書

(平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで)

(単位：円)

消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	2,473,202,000	2,485,967,620	△12,765,620
手数料	62,984,000	51,474,160	11,509,840
寄付金	12,994,000	16,567,342	△3,573,342
補助金	831,909,000	986,546,725	△154,637,725
国庫補助金	33,856,000	103,321,000	△69,465,000
地方公共団体補助金	797,801,000	882,909,725	△85,108,725
その他補助金	252,000	316,000	△64,000
資産運用収入	348,104,000	355,878,553	△7,774,553
資産売却差額	0	151,707,600	△151,707,600
事業収入	101,783,000	100,735,896	1,047,104
雑収入	45,814,000	85,947,066	△40,133,066
帰属収入合計	3,876,790,000	4,234,824,962	△358,034,962
基本金組入額合計	△800,000,000	△381,010,047	△418,989,953
消費収入の部合計	3,076,790,000	3,853,814,915	△777,024,915

消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	3,509,887,000	3,382,583,538	127,303,462
教育研究経費	2,041,748,000	1,915,819,253	125,928,747
管理経費	477,386,000	470,274,539	7,111,461
資産処分差額	365,940,000	392,813,954	△26,873,954
徴収不能引当金繰入額等	4,105,000	2,136,031	1,968,969
[予備費]	( 0 )		
	20,000,000		20,000,000
消費支出の部合計	6,419,066,000	6,163,627,315	255,438,685
当年度消費支出超過額	3,342,276,000	2,309,812,400	
前年度繰越消費収入超過額	6,461,577,898	6,461,577,898	
基本金取崩額	0	803,701,388	
翌年度繰越消費収入超過額	3,119,301,898	4,955,466,886	

(3) 貸借対照表の概要

当年度末の資産総額は75,423百万円で、前年度末に比べ2,754百万円の減少となった。有形固定資産は高田キャンパスの寮増設、郡山キャンパスの体育館建替等、新たな資産取得があったが、建物除去による固定資産削減が生じたこと等から173百万円減少した。また、第2号基本金特定資産を計画実行により1,369百万円取崩した結果、その他固定資産が1,408百万円減少し、固定資産合計では1,582百万円減少した。流動資産合計は1,171百万円減少した。

総資金では、負債の合計が1,794百万円で前年度末に比べ825百万円減少した。また、基本金及び累積の消費収支差額の合計である自己資金は前年度末比1,928百万円減少の73,628百万円となった。

平成23年度 貸借対照表  
(平成24年3月31日)

(単位：円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	67,857,118,914	69,439,659,577	△1,582,540,663
有形固定資産	47,102,616,037	47,276,471,051	△173,855,014
土地	22,580,384,151	22,559,220,603	21,163,548
建物	20,075,480,383	19,934,144,186	141,336,197
その他の有形固定資産	4,446,751,503	4,783,106,262	△336,354,759
その他の固定資産	20,754,502,877	22,163,188,526	△1,408,685,649
流動資産	7,565,931,106	8,737,761,408	△1,171,830,302
現金預金	2,647,752,498	2,940,326,567	△292,574,069
その他の流動資産	4,918,178,608	5,797,434,841	△879,256,233
資産の部合計	75,423,050,020	78,177,420,985	△2,754,370,965
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	843,381,109	854,979,968	△11,598,859
長期借入金	0	0	0
その他の固定負債	843,381,109	854,979,968	△11,598,859
流動負債	951,109,084	1,765,078,837	△813,969,753
短期借入金	0	0	0
その他の流動負債	951,109,084	1,765,078,837	△813,969,753
負債の部合計	1,794,490,193	2,620,058,805	△825,568,612
基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	53,676,804,091	52,730,195,961	946,608,130
第2号基本金	3,539,160,689	4,908,460,160	△1,369,299,471
第3号基本金	11,000,000,000	11,000,000,000	0
第4号基本金	457,128,161	457,128,161	0
基本金の部合計	68,673,092,941	69,095,784,282	△422,691,341
消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費収入超過額	4,955,466,886	6,461,577,898	△1,506,111,012
消費収支差額の部合計	4,955,466,886	6,461,577,898	△1,506,111,012
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	75,423,050,020	78,177,420,985	△2,754,370,965

## (4) 平成23年度 財産目録 (概要)

財 産 目 録

I 資産総額	75,423,050,020 円
内 基本財産	47,069,635,790 円
運用財産	28,353,414,230 円
収益事業用財産	0 円
II 負債総額	1,794,490,193 円
III 正味財産	73,628,559,827 円

区 分	金 額
資産額	
1 基本財産	
土地	478,214.85 m <sup>2</sup> 22,543,444,451 円
建物	114,481.11 m <sup>2</sup> 20,052,610,459 円
図書	350,354 冊 3,510 点 1,121,954,610 円
教具・校具・備品	34,551 点 946,764,272 円
その他	2,404,861,998 円
2 運用財産	
現金預金	2,647,752,498 円
その他	25,705,661,732 円
3 収益事業用財産	0 円
資 産 総 額	75,423,050,020 円
負債額	
1 固定負債	
長期借入金	0 円
その他	843,381,109 円
2 流動負債	
短期借入金	0 円
その他	951,109,084 円
負 債 総 額	1,794,490,193 円
正味財産 (資産総額－負債総額)	73,628,559,827 円

(5) 監査報告書

監査報告書

平成 24 年 5 月 14 日

学校法人 奈良学園  
理 事 会 御中  
評議員会 御中

学校法人 奈良学園

常勤監事 梅屋 則夫 ㊟

監 事 村田 智之 ㊟

私たちは、私立学校法第 37 条第 3 項に基づく監査報告を行うため、学校法人奈良学園の寄附行為第 10 条の規定に従い、学校法人奈良学園の平成 23 年度(平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで)の、学校法人の業務及び財産の状況について監査を行った。

私たちは監査にあたり、理事会及び評議員会に出席するほか、理事等から業務の執行状況を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、会計監査人と連携して学校法人の業務及び財産の状況を監査した。

監査の結果、学校法人の業務及び財産に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はなく、計算書類は平成 23 年度の収支の状況及び平成 23 年度末の財産の状況を適正に表示しているものと認める。

以 上